令和５年度　宮崎県立宮崎商業高等学校　自己評価　および　学校関係者評価

本校の目指す学校像　～校訓「克己求道」のもと 地域社会の負託に応える学校～
〇時代の変化に対応し、地域・社会に貢献する有為な人材を輩出する学校
〇生徒が持つ可能性を引き出し、最大限に伸ばす学校

本校の目指す生徒像　～気品があり、信頼される生徒～
〇志高く目標を持つ生徒　・・・高い理想に基づく使命感・行動力を育む
〇知性と常識備えた生徒　・・・教養に基づいた「創造力」・「判断力」・「適応力」を高める
〇心ある対応のできる生徒・・・誠実・寛容・感謝の精神を育成する

育成したい資質・能力：　心（こころ）あるビジネス人
「 心 」：①協働する力　②他を理解する力　③　適応力
「 志 」：⑦自己実現力　⑧想像力　⑨行動力

【宮商生に身につけさせたい資質・能力】（「評価項目」に対応）
「知性」：④基礎学力　⑤創造力　⑥探究力

段階評価	４：充分目標達成できた　３：おおむね目標達成できた　２：目標達成できていない　１：全く目標達成できていない

評価項目（上記【宮商生に身につけさせたい資質・能力】①～⑨に対応		評価指標および具体的数値目標	成果及び改善策（〇はプラス評価・●はマイナス評価）	自己評価	学校関係者評価	評価・具体的意見
生徒が主体的に学ぶ姿勢の確立と教職員の授業実践力向上の支援に努める	**②他を理解する力の育成** 議論や意見交換の場面を経験しながら、他者の考え方を手掛かりにして、さらに自分の考えを広げ深める理解力を身につけさせる。	〇各授業において、議論や意見交換を中心とした授業の機会を増加させる（公開授業で相互評価、外部評価） 〇ルーブリックやICTを活用した授業（jamboardや事後アンケート）へ実施	〇公開授業週間では教科の温度差があった。総合的な探究の時間においてルーブリックを活用し、生徒の質問に対応した。また、グループワークを通して意見交換の場面を多く作った。ディベートやディスカッションを積極的に取り入れることができた。各授業担当者がグループワークなどを行い工夫して授業を行った。 〇ICTの活用が進んでいるものの効率的活用法についての検証が進むように先行事例等を紹介できるようにしたい。	3	3	〇教師の生徒への働きかけや工夫などは良好だと思われる。 〇ルーブリックやシラバスの導入、Google WSの利用促進など授業改善の工夫が見られる。 〇アンケートの結果について記載が必要である。 〇成績不振者数を全体の１％未満と定めているが、現状の数値がわからないと判断がつかないと考えられる。 〇紙基準で事業構築するのは大変だと思うので、可能な限りペーパーレスが良いと考える。 〇例えば「ヨミトキ」など、学校の中だけでわかる言葉が社会で通用するとは限らない。誰にでもわかるように説明に心がけて欲しい。 〇「基礎学力の育成」と「自己実現力の育成」に力を入れることが志願者への働きかけになると思うので、継続的な取組を期待している。
	④基礎学力の育成 科目の目的をしっかりと認識し、目的に則した基礎的・基本的な知識を身につけさせる。	〇特別学習指導の実施 〇年度末成績等不振者数 全体の1％未満 〇4月に全校生徒へシラバスを配布し、全教科の学習指導に活用	〇教科横断的学習については「ヨミトキ」で実施出来た。今後さらに深化させるために教科代表者会などを通じて話し合いが必要である。 ●行事などによりシラバス通りに進んでいない教科がある。来年度からは生徒向けシラバスの配信に取り組みたい。年度初めや学期初めの授業の開始時にシラバスを用いて生徒に対するオリエンテーションを行った。学習相談対象生徒に対応した効果的な学習の定着についての考察が必要である。			
	⑥探究力の育成 授業と自宅学習を連携させ、自ら学び自ら考える力を身につけさせる。	〇ヨミトキの実施 〇Google WS　の利用促進 （Gメールやclassroom等の活用） 〇定期考査試験範囲の配信（教科）	〇「ヨミトキ」は少しずつ浸透しており、生徒は真剣に取り組んでいる。今後力となっているかの検証が必要。グローバル経済科の「ヨミトキ」は内容が難しすぎると感じる。			
	⑦自己実現力の育成 授業とは別に、自らのキャリアアップとして検定試験上位級取得を目指して邁進する力を身につけさせる。	〇各検定試験の受験支援 課外期間の設定、支援方法の工夫改善	〇資格取得についての意識が低下しており、検定取得に貪欲な生徒が減少しいるように感じる。また十分に対策をせずに受検している生徒もいたので、検定試験の案内や資格取得の意義を説明した結果、自ら進んで検定試験を受験する生徒が増えた。 ●課外は実施できたが、検定合格者数を増やすことができなかった。 〇事務部と連携して奨学金の案内を効果的に行っている。			
	〇カリキュラム・マネジメント 新課程に沿ったカリキュラム・マネジメントに取り組む。	〇新しい学力観をもとに評価基準の運用 〇学習指導要録および教科目標に沿った教科書・副教材等の検討と申請 〇2月までに次年度シラバス・評価基準を作成	〇各教科ごとに単元テスト等適切に取り入れられている。来年度の新課程完成年度に向けて、科目名の見直しや教科書採択を行った。新学習指導要領を基に新たな評価規準を導入できた。新学習指導要領における評価について少しずつではあるが実践されている。 〇全員にタブレットPCが揃う年度になるのでシラバスのPDF化などペーパーレスの検討を行う時期にきたと考える。			
社会人として必要とされ、即戦力となる人間の育成	**②他を理解する力の育成** 自己中心的ではなく、他者へ対して心ある対応がとれ行動選択ができる力を身につけさせる。	・放送朝礼を年間20回以上実施する。 ・定期的な学年集会を年間9回実施し、その他、生徒の状況に応じて適宜、計画実施する。 ・クラスマッチを1学期に企画し、学内のクラス内の振興を図る。 ・各種大会に向けた壮行会、表彰披露を学期2回実施する。	〇放送朝礼　19／22回タスク完了。3学期に残り3回を実施する。生徒会長が毎回予定を意識し、各担当者への事前連絡を欠かさず行った。内容においては、行事終わりやテスト・検定前など、生徒の切り替えのために必要な話しがされて、生徒の意識に変化が見られた。 〇学年集会等については各年次団の企画とはなるが、分掌担当者の役割分担もできており、計画的に進行している。共通理解を図る機会となっている。また、容儀検査が減ったこともあり、学年会などで容儀面について気になる生徒を把握し、組織的に指導していきたい。 〇クラスマッチにおいては、7月に1日半実施。生徒の安全に留意して実施することができ、生徒会役員を中心に一体感のある活動が見受けられた。その中で、他者への配慮や思いやりの心を持った振る舞いが見られたと考えている。一方で、人間関係のトラブルやルール、モラルに対する意識という部分で、生徒同士のコミュニケーションの希薄さや他者理解に対する考えの少なさが垣間見える部分もあった。学校行事等を通じた生徒間のコミュニケーションや他者理解がさらに進むよう取り組んでいくことが必要であると考える。次年度に向け、生徒からは年2回実施の要望がある。 〇表彰披露を実施し、宮崎商業の特色としての部活動の成果・活躍が広く生徒職員に認知できる場としてよい機会となった。個人としての活躍も披露される有用な場である。全国大会や世界大会出場報告は、他校でもメディアを呼んで披露しているので、広報活動にもつなげていきたい。	3	3	〇学校行事は生徒にとって良い思い出になるので、積極的に実施して欲しい。 〇生徒は率先して気持ちよく挨拶をしてくれる。 〇生徒の望ましい人間関係構築のため、部活動やボランティア活動を一層取組み、また部活動の退部者や未加入者の理由を検討して適切な対策をとることを期待する。 〇通学は学校管理の中にあると考えられるので、ヘルメットは必ず着用するべきだと考える。必要性を伝えるのは学校の責任である。 〇ボランティアの取組をされているのは良い。

評価項目（上記【宮商生に身につけさせたい資質・能力】①～⑨に対応		評価指標および具体的数値目標	成果及び改善策（○はプラス評価・●はマイナス評価）	自己評価	学校関係者評価	評価・具体的意見
社会人として必要とされ、即戦力となる人間の育成	**③適応力の育成** 自分の考えや行動に対して責任を持ち、正しく判断して行動選択ができる力を身につけさせる。	・5月にリーダー研修会を実施する。 ・交通安全教室を実施し、年間を通じて地域安全情報を提供する。 ・夜間巡回指導に月2回参加して、地域の青少年育成に参画する。 ・2学期に部活動生集会を実施する。 ・校内規定や校則の見直しについて、改善手続き等を明示し、生徒が意見を述べられる場を設定する。	○5月にリーダー研修会は例年から規模を縮小して学級委員長のみに実施した。クラスのリーダーが学年の垣根を越えて集い、協働することの力強さ、牽引することの難しさを説いた。生徒同士の交流をメインに楽しくもリーダーとしての意識が高まる会になった。 ○月に2回の夜間巡回指導に生徒指導部職員であたった。元警察官の地域指導員のリーダーシップを感じるとともに地域の地理的理解や夜間帯の様子、宮商生の地域との関わり方を把握するよい機会となった。また、警察や街頭導を通じての地域安全情報を適宜発信して生徒の安全に努めた。 ○10月に部活動生集会（全学年対象）を実施。部活動の意義や目的、学習と生活のあり方を指導した。年度半期の時期に実施されることで、半期総括と具体的な改善事項等が示されよい機会となった。学校の雰囲気や部活動を用いた良い雰囲気作りがなされることに期待したい。 ○生徒総会では、校則の見直し等についても活発に議論がなされている様子があった。一方で、生徒1人1人にとって自分事ととらえられるような機会になっていたかという点において、今後の改善の余地があると思う。集約された意見を受け止め、今年度中に反映できる内容は改善を図り、各クラスや委員会での周知も行っていった。生徒会を通じて、定期的に規則等の見直しを行い、曖昧な表現やルールを改善していきたい。 ○生徒自身が地域の方と関わり合う機会を増やし、社会に生きる自分自身という意識をもたせることで責任感の涵養に向けたきっかけとすることができるのではと思う。 ●5月に交通安全教室を全学年対象に実施。外部講師が変わったことで少し不適切な発言が気になった。来年度に向けて内容を検討していきたい。12月には、3年生を対象に自動車学校の協力を得て再度実施する。			○リーダー研修会などの活動が、適応力・責任感などの育成につながっていくか検証が必要。 ○フランクリンプランナーを高校生の時から活用できるのは良いことである。
	⑦自己実現力の育成 ホームルーム活動や学校行事、部活動を通して人格を磨き、より質の高い実践力を身につけさせる。	・生徒心得をHPやclassroomに掲載し、商業生としての適切な判断力を身に付けさせる。 ・部活動加入率80%以上を目指す。 ・学校行事の前にはホームルーム活動の時間を適切に設定し、生徒の意欲的な行動を助長させる。 ・ボランティアや街中イベントへの積極的な参加を促すため、校内広報サイトを作成して、その運用を行う。	○生徒心得をホームページに掲載した。生徒心得については、デバイス越しの周知徹底には工夫が必要であると考える。アナウンスされた際の一過性が強く日常的に意識することが難しい。 ●部活動加入率　1年：83.1%、2年：76.5%、3年：85.8%、全体：81.5%。多くの部活動が活性化している。退部者がいたが、退部後に他の部活動に加入している生徒も見られた。働きかけをしていきたい。また、時期によって退部者が多くなることがあるので注意したい（2学期の後半から3学期にかけて1年生の退部者等が出やすい）。一方で、部活動加入の意識がない生徒もいる。部活動の有用性について生徒及び保護者の理解も必要である。部活動に入っていない生徒をホームルームや学校行事の中で適切な役割に就かせたり、ボランティア等に参加する機会を学校全体としてさらに推進していくことができるようにも感じる。部活動に加入していない生徒に対して、ホームルームや学校行事等の中でどのように自己実現に向かう態度を育成できるか考えていきたい。 ●昨年度に比べ、行事前の学級活動時間は計画的に割り当てられたが、年次計画されている分掌等の統合LHRの一部に計画倒れがあった。 ○生徒指導部インフォメーションサイトを立ち上げ、校外の各種団体から依頼のあったイベントやボランティアの案内を行った。情報提供は行っているので、受け取り側の生徒の参画意識を向上させる必要がある。 ○ホームルームや部活動については、これまでの本校の取り組みをデジタル化していくような形で前進しているような印象である。	3	3	
	⑨行動力の育成 ホームルーム活動や学校行事、部活動を通して忍耐力や人間関係の構築等、宮商でしか体験できない環境の中で自らの人格を高めていく力を身につけさせる。	・月1回（年間11回）、各種専門委員会を実施する。 ・1年生は宿泊研修、2年生は修学旅行を計画する。 ・始業開始時間の意識付けのため、毎朝、入門遅れ指導を行う。 ・フォーサイト手帳（ビジネス手帳）の活用を促す。	○専門委員会　9／11回タスク完了、残り2回。各種専門委員会は生徒会総務担当者も活躍しており、牽引してくれている。なかには、会のあり方が形式的で活発な議論があまりない委員会もあり、役員の教育に努めたいと思う。 ○自転車のステッカーや駐輪場の使い方を厳しく指導することで環境が改善されたので、今後は専門委員を通じた生徒主体で定期的に実施していきたい。 ○3年ぶりに宿泊研修を実施。年頭の多忙な時期での実施に毎年様々な意見が挙がっているところではあるが、意義ある研修活動でもあるので、企画・運営における組織体制から見直すことを検討したい。無くす、代える前に変わることを考えたい。 ○入門遅れ指導は、担任と連携を取り、指導を行うことができた。特定の生徒に偏ってきているので、粘り強く指導していきたい。また、始業開始時間の必要性や重要性について説く機会を設定し、入門指導の意義等をもう少し周知徹底させるとともに、入門遅れ指導のあり方も継続的に協議していきたい。 ○フォーサイト手帳の使用状況について生徒に実際の声を聞くことができた。			
３．進路先から信頼される人間力を身に付けさせる。 ２．資格・生徒自らが進路設計できるように、進路ガイダンスを充実させる。 １．質の高い進路取得推進）を行っていく。	**①協働する力の育成** 進路先から信頼される人間力を身に付けさせる。	○進路行事を通しての生徒指導。 ○進路の提出物の期日の厳守。 ○就職後3年以内の離職率0%に繋がる指導。	○応募前見学を行い、納得した上で応募に至った。保護者も同伴して良い会社もあり、保護者にとっても良かったと思う。 ○進路に関する行事を通して生徒の成長が見られた。指導に対して真摯に受け止め、自分の力とすることが出来た。 ○第一志望の企業に不採用だった生徒に、就職支援コーディネーターから企業を紹介していただき、事前見学にも行かせることができて大変有り難かった。 ○１・2年生向けに新たな進路ガイダンスⅠ・Ⅱを実施した。２年生が積極的に相談に来てくれたので、来年度も実施したい。	3	3	○前年度の反省を活かし、改善がなされている。 ○「宮崎に若者をのこす」という視点で、地域企業との連携を積極的にして欲しい。 ○元々の商業高校のねらいと、現在の生徒や保護者の進路ニーズに開きを感じる。一方、ギャップを埋める学校の努力、例えば選択科目を増やすなど工夫が見られた。 ○数値目標が設定されている項目があるが、これらの目標が達成されたのかどうかわからないので、明確に記述して欲しい。 ○面接講座や練習会については部活動より優先させるべきだと思う。 ○進学希望者が増える理由がわかると、今後の方策に生かせると思われる。 ○わからないことを全てネットにたよる現状に、残念な気持ちになる。他にも調べる方法があると思うので対応策を検討して欲しい。
	③適応力の育成 **④基礎学力の育成** 変化に対応できる基礎学力を定着させる。	○SPI・一般常識テストの再テスト受験者を10％以内。 ○欠席者を昨年比10％減少。	○朝のＳＰＩテストと事前学習は静かに集中できる環境で取り組ませることができた。企業の適性検査で難しいものがあったようなので、対策用のテキストが別途進路指導部に置けるとよいかもしれない。 ○四年生大学進学希望者（国公立大・難関私大）に向けて夏季・９月に小論文課外を実施した。（全１７日）その結果18名が国公立大学に合格できた。 ○2年生の公務員課外は例年（２年次２月）より早く（２年次１２月から）開始できた。 ●昨年までは、大学の方から卒業生が基礎教科の学習で苦戦していると指摘されていたが、今年は専門学校の方からも同様の指摘を受けた。学力向上に繋がる仕掛けを考えたい。 ●進路課外は計画通り行われたが、全員合格させるまでには至らなかった。課外＋自分の努力が必要であることを生徒に理解させ、継続的に取り組ませなければいけない。			

評価項目（上記【宮商生に身につけさせたい資質・能力】①～⑨に対応	評価指標および具体的数値目標	成果及び改善策（○はプラス評価・●はマイナス評価）	自己評価	学校関係者評価	評価・具体的意見
3．2得意な進路から高校生活を送れるように、生徒自らが進路設計できるように、進路ガイダンスを充実させる。 **⑥探究力の育成** 生徒自らが進路設計できるように情報を提供し、自らの進路に興味を持たせる。	○校内企業ガイダンスや校内進学ガイダンスの実施。 ○オープンキャンパスの案内。 ○進路資料室の掲示物の整理。 ○各学年PTAでの進路行事の充実。	○夏休みにハローワークや企業の人事担当者の方による面接講座・練習会を実施することができた。就職希望の生徒にとっては、貴重な練習の機会となった。部活動で参加できない生徒がいたが、できるだけ就職希望者は全員参加できるようにしていきたい。 ○生徒は校内のガイダンスや校外のイベントなど多くの行事に積極的に参加した。自分の進路に対して明確な目標を持たせるきっかけとなったと感じている。 ○ハローワークの方による面接指導や履歴書講座、企業の方による模擬面接など充実できた。緊張感が高まり良い刺激になった。 ●部活動生は最終的に夏休みを利用してオープンキャンパスに参加した生徒が多かったが、もう少し早めに参加して比較してほしい。	3	3	
⑦自己実現力の育成 **⑨行動力の育成** 進路課外、小論文講座、オープンキャンパス、資格取得を推進し自己実現に繋げる。	○進路指導部職員による2年生への面談。 ○研修会の実施による指導力の向上。 ○1･2年生への進路情報の提供。	○１・２年生への進路学習の機会を多く与えた方が良いと感じている。今年度は、面談や進路講座を実施し、進路について考える時間を増やした。今後も定期的に実施し、より効果を高めたい。 ○進学希望者がますます増加している。来年度の職員研修は志望理由書の書かせ方について実施し、先生方の指導力向上に繋げたい。 ●基礎力診断テスト結果の活用が今後の課題である。 ●小論文の指導で、ある事柄について調べるように求めたところ、翌日「ネットで見たけど、何も出てきません。」と言ってきた。情報収集能力の低さが気になる。商業科や学年と対応策を考えたい。 ●小論文指導者を来年度は増やしたいと考えている。（担当者負担感軽減）			
生徒・職員の研修の充実、情報管理・ICT環境の充実、情報漏洩0（ゼロ） **①協働する力の育成** 個人情報及び肖像権の取り扱いについて理解させ、情報モラルを身につけさせる。人権学習を通して、他の理解し自分や命を大切にする態度を身につけさせる。	生徒の情報モラル違反0% 生徒の情報リテラシー習得率80%	○2学期の人権教育は、2年生対象にLGBTQs･ジェンダー平等、3年生対象にハラスメントを実施した。 ○個人のSNS等の活用については不明確な部分があった。学校内における情報リテラシーに係る教育についてはICT推進委員の活動を通して概ね良好であるように思う。 ○今後も1年間を通して、情報モラルや人権について考えさせ、情報リテラシーや人権の基礎をしっかりつけさせていく必要がある。 ○ICT学習に関しては、環境が整いスムーズに動いてきている。学年全員が同じWebサイトにログインしようとする際は、Googleの関係上ネットが止まる可能性があり、そのことを踏まえて実施計画を行うことで、ネットの停止等による授業のトラブルはなかった。 ●情報リテラシーの向上として、キーボード入力の早さも必要であるため、次年度は年間を通してキーボード入力をさせる取り組みと取り入れていきたい。			○人権教育・情報教育で具体的な成果が見られるが、数値目標の検証が不明確なため、成果の根拠がわからない。 ○個人SNS利用についてアンケートをとって実態を把握する必要がある。 ○数値目標の達成度の記載が必要。 ○職員向けのセキュリティ研修はぜひ実施して欲しい。 ○あらゆる事をgoogleフォームで情報を集めれば、検証がしやすいと思われる。 ○人権教育は多様化・ハラスメント理解にとって重要だ今後も継続していただきたい。 ○ICTはますます進化していく。セ
⑥探究力 総合的な探究の時間や課題研究を通して、問題解決に不可欠な探究力を身につけさせる。	探究活動充実度80% 探究レポート提出率100%	○1年生の総探は文献紹介、グラフ、職業人インタビュー、アンケートを実施。 ○1年次のインプット期、それを受けての2年次のアウトプット期としての探究活動が概ね良好である。また、多くの教員がgoogle classroom,googleフォームを活用したルーブリック評価を実施し、その実施率も概ね良好であるように感じる。 ○探究の時間を活用し、探究スキルを身に付けさせることができている。自分達で問題解決に向けた考え方を身に付けることで、レポートのまとめもできてきている。 ○ひなた探究を活用することで、外部とのつながりを作ることができ、生徒の探究に対する動機付けにつながっている。			
⑦自己実現力 自己理解を深めさせ、自分のキャリアや夢実現に必要な力や考え方を身につけさせる。	進路希望調査提出率100% キャリアパスポート活用率80% オープンキャンパスの参加50%	○1･2年生対象に2学期はじめにリクルートの資料も用いてキャリア学習を実施。進路希望調査につなげた。 ○2年生対象に2学期終わりから3学期にかけてリクルートの資料を用いてキャリア教育を実施。職員研修も実施。 ○1年生対象に12月にキャリアパスポート実施。 ○進路希望調査については概ね提出できていると考える。 ○進路希望調査はしっかりとできている。LHRなどを計画的に行い、自分の将来を考える機会は増えていると感じる。	3	3	
⑨行動力 情報モラルや探究力などを活用できる実践力を身につけさせる。	生徒のICT活用率80%	○タブレットを所持するようになり活用していると考える。また、先生方も各教室に設置されているプロジェクターを使用し授業を展開されているのでできていると考える。 ○ICT活用率80%達成はできていると感じる。ほとんどの授業でICTを活用しており、課題提出や授業資料の共有をClassroomなども用いて行っている職員も多く、生徒たちも活用できている。 ○タブレットを活用し、自分の感じる問題を解決するように行動する生徒が増えてきている。中には周囲の人の役に立つような活用をしている生徒もおり、実践力が向上しているように感じる。			
○キャリア教育･研修の充実 キャリア教育、人権教育、主権者教育、修学旅行などの生徒の研修および職員研修の充実を図る。	職員向けの校外研修、生徒向けの募集などのミライム･教室掲示･Gmailでの案内100% 生活の記録などの回収率100%	○1年生の総探ではキャリアコーディネーターと連携を密にし、28社の企業の方に協力していただいた。 ○2年生の修学旅行は初めてのコースだったので早めに計画を立てて準備してきた。 ○自宅学習時間調査はクラス間に取組の差がある。調査することだけが目的ではない。学年会で共通理解を。 ○2学年の総合探究では、1年次の学びを踏まえ、また3年次課題研究への連関を意識した活動への働きかけを行った。 ○ミライムやGoogleWorkSpaceを利用できていると考える。 ○研修等は充実しており、ミライムや掲示板等も充実していると感じる。また生活の記録は、各クラス担任の声掛けや担当者が集約してくださっているため、しっかりと回収できている。 ○研修に関しては計画的に実施できている。使用方法に関してのマニュアルも作成しており、職員の機器利用に関する環境は整ってきている。 ○今年は1年生に対して給与計算の説明を行った。自分の進路を選択する際に福利厚生の充実が何を意味するのかを学習できる場を作ることができた。			

評価項目（上記【宮商生に身につけさせたい資質・能力】①～⑨に対応		評価指標および具体的数値目標	成果及び改善策（○はプラス評価・●はマイナス評価）	自己評価	学校関係者評価	評価・具体的意見
生徒・職員の研修の充実、情報管理・ICT環境の充実、情報漏洩0（ゼロ）	**○データ管理・ICT環境の充実** 他分掌の生徒情報を集約し、データ管理を徹底する。また、ICT環境の充実を図る。	情報漏洩0% 指導用端末配布率100% ICT機器・情報端末職員活用率70%	○ICT委員会の生徒による各教室の情報機器動作確認調査を実施（プロジェクタやスクリーン他） ○各教室に「プロジェクタの使い方」を配付 ○情報セキュリティ実施手順冊子配付 ○情報漏えいは起こっていないと考える。今年は、一括して一定時間パソコンを使用しなければロックがかかるように設定変更を行ってもらった。 ○ICT環境については、ネットワークやセキュリティ環境の整備を行っているため、特に問題ないと感じる。 ○校内のネットワーク環境は整いつつあり、職員が積極的に活用をしてくださっている。ミライムや教務のポータルサイトのお陰で情報の共有もできている。 ○職員のPCの画面を一定時間使用しないとロックがかかる設定に変更したことで、セキュリティ面が向上した。	3	3	
	○情報発信の充実 学校情報発信の充実を図る。	学校行事・部活動のHP掲載100% Googleフォーム回答率100%	○宮商HPに本校に関する記事を掲載 ○概ね職員に浸透してきており、各職員でClassroomやGメールの配信やマチコミの配信を行ってもらっている。 ○HPは非常に充実している。また、有志によるInstagramの運営によりSNS等で本校の魅力を発信するような機会が増えた。 ○Classroomの活用は職員も積極的に活用できている。しかしMicrosoftに関しては、生徒も職員もあまり活用できていないように思える。 ○HPやマチコミメール、Gメールなどの活用は進んできている。生徒指導部もボランティア募集などを生徒に発信しており、充実した。			
1．生徒自ら健康・安全に積極的に興味・関心を持ち、自身の健康課題を解決するための適切な判断力・適応力を身につけさせる。 2．望ましい心豊かな健康生活が主体的・創造的に実践できる能力を育てる。	**①協働する力の育成** 生徒保健委員会活動の充実。 **⑤創造力の育成** 生徒保健委員会活動において、生徒同士が積極的に意見を出し合い、様々な活動を展開できる能力を育てる。	○感染症予防対策 主体的かつ協働的に取り組んでいるか。 ○ 毎日の健康観察簿提出 協働的に取り組んでいるか。提出率100% ○体育大会における救護 主体的かつ協働的に取り組んでいるか。	○健康観察簿の提出状況は概ね良好であった。 ●健康観察簿の提出が間に合わない現状として、保健委員が忘れていて遅れて持ってくるケースと職員がもったままで提出が遅れるケースがあった。感染症発生状況をいち早く把握する必要があるので今後、周知徹底していきたい。 ○体育大会の救護は、体育大会が短縮ではなく、通常通りの開催になり、けがをする生徒が短縮開催より多い状況であった。 ○体育大会が10月の開催だったこともあり、熱中症症状を訴える生徒は減少した。 ○体育大会中に休憩するためにだけ救護に来る生徒が見受けられたので利用の仕方の線引きをする必要があると感じた。 ○体育科の先生方の指導や生徒の奮闘により無事に体育大会を行うことができた。	3	3	○生活習慣と健康アンケートの結果に基づいて、個別に相談の機会を設定するなど丁寧に対応している。アンケートで対応できないケースも考えられるので、より細かい対応を検討して欲しい。 ○全ての生徒が「心身ともに健康」であることはなかなか難しいと思うが、今後も「一人ひとり」に寄り添った取組を期待している。 ○健康観察をgoogleフォームで入力していけば、手間も間違いも少なくなる。 ○数値目標について結果を数値で表すと良い。 ○LGBTQやヤングケアラー問題は、本人が「SOS」を出しにくくひとりで抱え込む傾向にあると思われるので、相談しやすい環境作りの継続を期待している。
	②他を理解する力の育成 他者の命や性を尊重し、大切にできる心豊かな人間性を育む。 **④基礎学力の育成** 疾病予防についての知識を深め、健康の重要性を理解する。 **⑦自己実現力の育成** 自己肯定感を高め、なりたい自分へと前に進む力を育む。 **⑧想像力の育成** 未来の自分や自分を取り巻く環境について想像し、命を大切に、たくましく生きていこうとする能力を育てる。 **⑨行動力の育成** 生涯を通じて心身ともに健康的な生活が主体的に実践できる能力を育てる。	○心肺蘇生法講習会 他を理解し、協働的かつ行動的に取り組んでいるか。 部活動代表者による自己評価80%以上 ○熱中症対策講話 基礎力と想像的に講話を聞けたか。 ○性教育講演会 他を理解し、自己実現と想像的に講演会が聞けたか。 アンケートによる自己評価80%以上 ○定期健康診断の実施と事後措置 想像的かつ行動できたか。 治療率50%以上	○心肺蘇生法講習会は、各部活動の代表者が意欲的に参加している姿が見られた。「主体的に参加できたか」「今回の学びをいざというときに活かしたいと感じたか」については自己評価100%であった。 ○健康診断の事後措置については、計画に基づき、対象の生徒へ直接受診勧告ができた。長期休業前は受診しやすいタイミングなので、今後も計画的に実施していきたい。 ○性教育講演会は、生徒の感想や講師への質問等からも、主体的に参加することができていたように感じた。LGBTQを自分のこととして考えるきっかけになった。 ○生徒及び職員の心肺蘇生法講習会では、救命に役立つ心肺蘇生法の手順とポイント、AEDの使用方法について、実技を中心に講習を行った。AEDが必要な事態に遭遇した場合に対応できる知識と行動を身につけさせていきたい。 ○熱中症対策講話は、生徒が正しい知識を理解することで予防啓発になった。近年の夏の気温上昇が著しいため、生徒一人一人が自主的に予防に努められるようにできると感じた。 ○健康診断後の要精密者の受診率は、歯科と視力は未だに低い状況であった。今後も、個別指導を通して、疾病治療の大切さを繰り返し指導していきたい。			
	③適応力の育成 日頃の生活を振り返り、規則正しい生活習慣を身につけさせる。 **⑥探究力の育成** 心身の健康を保持・増進するために、健康課題を自ら考え、解決していく能力を育てる。	○生活習慣と健康に関する調査についてのアンケート実施 日頃の生活を振り返り、適応的かつ探究できたか。 自己評価80%以上	○生活習慣に関するアンケートについては、事後措置として個別指導を実施した。生活の様子や心身の状態を詳しくききとり、改善に向けてスモールステップで作戦を一緒に考える機会となり、継続して支援していけると効果的である。また、生徒自身が現状に問題意識を持っていない場合には、行動変容を促すことが課題であると感じた。 ○2学期に全校生徒を対象に生活習慣調査を実施し、心身の不調を訴える生徒を個別に呼んで話を聞くことができた。不規則な生活習慣、悩みや不安といった精神面が、身体症状として現れるケースも多く見られたので心配な生徒については、担任や教育相談部と情報を共有し、支援を行っていきたい。			
心を磨き、命を守る活動　～気づきのある自主的活動～	①協働する力の育成 美化委員会、園芸係を中心とした各清掃場所担当者の自主的活性化を図る。	○気づきのある清掃の促進 ○年5回の清掃強化週間の実施 ○春と秋のHR花壇の整備	○清掃に取りかかろうとする生徒が増えてきた。まだ自主性という点では欠けている部分はあるが、生徒・職員へのアプローチの仕方を考えていきたい。 ●清掃開始のチャイムと同時に清掃に取りかかることを目標にしていたが、全校で達成することはできなかった。また、時間いっぱいの清掃活動に関しては、以前と比べると改善したが、徹底には至っていない。今後も清掃指導の強化と声かけを行っていきたい。 ●先生方の指導により、良い学習環境を保つことができているが、自主的に活動する生徒が少ない。今後はチャイムと同時に開始し、片付けまでしっかりと行わせたい。	3	3	○環境は生徒の行動に大きな影響を及ぼすので、生徒の清掃活動が主体的なものになるよう検討が必要である。 ○学校全体がきれいに清掃されて清潔感があり気持ちよい。 ○清掃の意義・目的について積極的に伝える必要がある。 ○地域の防災訓練に参加する必要がある。 ○ゴミ分別について学校でも指導が必要である。
	③適応力の育成 防災意識の高揚を図り、防災の実践力を身につけさせる。	○年1回の防災訓練の実施 ○防災マニュアルの見直し ○地域の避難場所としての地域住民との連携	○防災学習と南海トラフ地震を想定した防災学習、避難訓練の確認を4月に行った。昨年まで、新型コロナ対策で、全学年一斉での避難訓練は行うことができなかったが、今年は、各棟3Fへの避難も含め、通常通りの避難訓練を行うことができた。			
	⑦自己実現力の育成 環境美化について意識の高揚を図り、校内の美化活動に主体的に取り組ませる。	○チャイムと同時に清掃開始の徹底 ○清掃時間いっぱいの清掃活動	○年5回、清掃強化週間を実施し、各清掃リーダーと環境美化委員で協力しながら清掃に対する意識の高揚を図ることができた。 ○6月、11月には、園芸係による、クラス花壇の整備を行った。クラス花壇である意識を各クラスに持っていただき、整備を続けることができた。 ○チャイムと同時に清掃を開始することに関しては、概ね良好であった。			
	⑨行動力の育成 ゴミ分別の徹底と減量化に努めさせる。	○ゴミの持ち帰りの徹底 ○ゴミ分別を徹底	○体育大会、文化祭（宮商マルシェ）と大きな行事が行われたが、しっかりとゴミ分別ができていた。 ○各教室のゴミ箱を一つにしてゴミの持ち帰りを推進した結果、ゴミの持ち帰りが促進された。 ●丁寧に分別している生徒もいるが、目の届かない場所ではいい加減なゴミの捨て方をしている状況もあった。			

評価項目（上記【宮商生に身につけさせたい資質・能力】①～⑨に対応		評価指標および具体的数値目標	成果及び改善策（〇はプラス評価・●はマイナス評価）	自己評価	学校関係者評価	評価・具体的意見
活発な図書館利用を通して、読書の質や量の充実を図り、また自ら学び探究する生徒の育成を支援する	**⑥探究力の育成** 自立的な読書の習慣や幅広いものの見方・考え方を身につけさせる。	・年間貸し出し冊数　生徒一人平均4．5冊以上 ・来館者の増加（20人/日）	〇朝の読書 ・時間が来たら自発的に取り組む体制 ● 図書館利用 ・放課後利用は10人以下／日（目標20人） 〇10分NEWs(3学年のみ毎週金曜日実施) ・新聞記事に興味を持ち取り組みも良好 ● 貸出冊数(1月23日現在　全校平均2．4冊／人) （1年・・・4.8冊/人　2年・・・0.9冊/人　3年・・・1.5冊/人） 〇館内整備 ・7月に赤木かん子氏を招き館内整備への助言	3	3	〇学力の基礎である読書が、量において目標に届いていない。生徒の考える力を育成するためにより一層の取組が重要。 〇「10分NEWs」の取組は、社会人にとって新聞情報は重要だと思うのでぜひ継続して欲しい。 〇タブレットで本を借用できる取組をお願いする。 〇様々な取組によって、生徒がどう変わったか教えて欲しい。
	⑦自己実現力の育成 進路実現のために、図書館を活用して様々な資料を読みこなし、必要な情報を得ることができる情報活用能力を身につけさせる。	〇進路選択や小論文指導に役立つ図書資料の購入（3回/年） 〇10分NEWs（3年生/毎週金曜日）と新聞コラムの提示（全生徒/毎日） 〇読解力向上プロジェクト（ヨミトキ）の原稿選択	〇10分NEWs ・3年生のの取り組み良好 〇新聞コラム（日々のコラム） ・4誌のコラムを毎日作成 ・授業等での利用促進不足 〇ヨミトキ ・実施の定着化 ・取り組みの成果をどう測るか			
	⑧想像力の育成 本との「出会い」の機会を多く提供し、読書の質を向上させ、豊かな「感性」を身につけさせる。	〇蔵書点検の実施（1回/年） 〇宮商ライブラリーの発行(月1回/年) 〇新刊書の紹介（10回/年） 〇図書館前掲示板の内容の充実 〇Book Picnicボランティア実施 〇「本の飢餓」を救おうキャンペーン 〇作家による講演会	〇蔵書点検 ・2月19日（月）～22日（木）実施予定 〇図書促進イベント ・県総合文化公園でのボランティア参加（5月/9月） ・校内Mini Book Picnicの実施（秋の校内図書旬間期間中） 〇宮商ライブラリー・新刊紹介 ・定期的な発行 ・校内唯一の生徒作成の新聞 〇作家による講演会 ・6月に作家 村山由佳氏による講演会の実施			
ＰＴＡ活動をとおして、保護者・地域との連携強化を図る。	委員会活動・各種研修会の活性化及び保護者・地域との信頼関係作りに努める。 **②他を理解する力の育成** 学校での出来事や連絡を日常的に保護者に伝え、逆に家庭からの連絡を学校に伝えるなど、保護者と学校、保護者と保護者の橋渡しができる力を身につけさせる。	〇 PTA新聞を、滞りなく編集・発行できたか。 〇 保護者同士、または保護者と教職員が親睦を深めるPTA行事を開催できたか。 〇 大学や企業視察、母親委員会など、保護者の啓発になる研修会を開催できたか。	〇　PTA研修視察は、大分大学と立命館アジア太平洋大学を訪問した。参加者の感想は概ね好評で非常に有意義な研修だった。 〇 母親委員会研修会は「初めての一人暮らしのための新生活アドバイス」のテーマで、講師を招いて行い、大変好評だった。次年度も同じ内容で、広くアナウンスして実施してもよいのではないかと考えている。 〇 PTA物品バザーは、準備作業から運営まで保護者の方々から多大なるご支援を賜り、とても充実した活動となった。 〇 1学年は学年レクリエーションとて「ゴミレク」を開催した。各クラスで集めたゴミの重さを予想して申告し、計量して申告と一番近いクラスに賞品を出し好評であった。 ● PTA行事への参加は強制ではないが、依然として、参加しないことに対する後ろめたさを感じている保護者の存在がうかがえる。そのような保護者の心理的な負担を軽減するのが、課題だと考えている。	4	4	〇PTA活動や新聞等により、保護者への働きかけがよく行われている。 〇PTAとの連携が適切に行われているが、単なるイベントで終わらない工夫が必要である。評価指標に対する成果を示して欲しい。 〇PTA活動は保護者と学校をつなぎ、保護者が学校の方針や取組を理解できる重要な活動だと思います。より有意義になる活動を期待している。
生徒や保護者が抱える問題や悩みの解決にむけて、ひとり一人に寄り添い、計画的、組織的に支援を行う	**②他を理解する力の育成** 好ましい人間関係のあり方について理解を深め、互いの個性や特性を認めあい、共に成長しようとする姿勢を身につけさせる。 **③適応力の育成** 問題や悩みを自分自身が乗り越えるべき課題と捉え、解決に受けて主体的に取り組む姿勢、レジリエンスを身につけさせる。 **⑦自己実現力の育成** 自尊感情を高めながら、職業等の社会的役割にとどまらない、人としての在り方生き方、人格面の成長を考えさせる。	〇相談件数（生徒・保護者・教員・その他） 〇相談室に登校する生徒、および別室登校認定生徒の数 〇高度医療、入院等による配慮が必要な生徒への内規作成	〇相談者に寄り添いながら問題解決、生徒の成長を支援した。 ・相談の延べ件数(～1/24) 生徒相談898件、保護者相談110件、職員相談53件、外部機関連携・他41件 ・相談室登校認定生徒3名・教育相談委員会3回(～1/24) 〇支援した結果、教室には入れなかった生徒が、うまくクラスに復帰できているケースもあった（4件）。 〇相談室登校生徒に対し、多くの先生方が来室してくださり、多様な支援が可能になっている。 〇重大な疾病疾患を持つ生徒に対して、内規を整理することができ、入院等の際の配慮もできた。 〇学習や検定の指導で、生徒の精神面が安定することを実感している。教員の時間的ゆとりが必要。 ●学習相談会後、相談室生徒に対する各教科の課題が集中し、メンタル不調の生徒にとって負担が大きい。 提出する指導計画書プリントや印鑑をもらう欄の多さも検討の余地がある。 ●2学期以降、教室に入れない生徒、進路変更を選択する生徒が増えた。小中学校から不登校を体験している生徒や人間関係に起因するケースが多い。相談室には来室せずに、欠席が増えている生徒も多い。 〇●窓の転落防止ストッパー、衝立、カーテンなどが整った反面、窓が開けづらく空調もなく夏は大変だった。	3	3	〇教育相談は多岐にわたり、一人ひとりの状況に適切・丁寧に対応されている。担当者の負担が大きいことが心配で、組織として適切な対応が求められる。 〇生徒と向き合う時間を増やすために、事務作業の改善が必要だ。 〇様々な工夫で生徒に寄り添う取組は先生方にとってとっても大変ご苦労なことだと思うが、ひとりでも多くの生徒が自分らしく行動できるサポートを今後もお願いする。

評価項目（上記【宮商生に身につけさせたい資質・能力】①～⑨に対応		評価指標および具体的数値目標	成果及び改善策（○はプラス評価・●はマイナス評価）	自己評価	学校関係者評価	評価・具体的意見
生徒や保護者が抱える問題や悩みの解決にむけて、ひとり一人に寄り添いながら、計画的、組織的に支援を行う		○個別の支援計画作成の人数 ○SST、面談等の支援実施回数 ○支援会議1回以上 ○研修会1回以上	○特別支援研修会(8月1回、12月1回)を開催した。 ○個別のケースに対応する教科担任会3回（うち1回は外部講師あり）を開いた。 ○外部の特別支援の専門家に来校を依頼して、個別の生徒について2月にアドバイスをいただく予定である。 ○遅刻をくり返す特性の強い生徒に対し、生徒指導部と連携して指導支援を相談部が適切に対応している。 ●業務が多すぎて、昨年度までできていた、放課後のSSTなどの支援ができていない	3	3	
		○心理検査1回 ○いじめ体罰ハラスメントアンケート3回 ○いじめ対策委員会の開催回数 ○検査やアンケートをもとにした面談人数	○心理検査1回、アンケートを3回実施し、個別面談、人間トラブルの早期解決など、部全体で取り組んだ。 ○3学期はタブレットでのアンケートを試行する。来年度以降の業務の軽減に繋げたい。 ●1学期に1回のいじめ対策委員会を開催し、問題を早期に解決した。2学期には、いじめ対策委員会を開く ケースはなかったが、トラブルの双方が被害意識を持ったままの難しいケースが2件あり、対応を継続してい る。2月にもいじめアンケートを実施する。			
		○相談室便り年3回以上 ○相談室報告年5回以上 ○学年会出席状況 ○スクールカウンセラー等の外部機関との連携回数 ○「心のバリアフリー活動」校外交流1回 ○「心のバリアフリー活動」校内活動8回	○「心のバリアフリー」委員会をとおして、清武せいりゅう支援学校との交流教育を進め、実施後は様子を模造紙にまとめて校内に掲示したり、お礼の手紙を書いた。 ・委員会活動9回 ・生徒2名による交流の下見および打ち合わせ（5月） ・生徒12名による交流教育（12月） ○相談室便り3回、相談室報告4回発行。相談窓口紹介など啓発に努めた。（3学期は発行できていない） ○養護教諭に教育相談部会に出会していたき、情報共有に努めた。 ○児童相談所、県中央発達障害者支援センター、赤江まつばら支援学校チーフコーディネーターと連携した （スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの利用はなし）。 ○学年会の報告内容について、教育相談部内で共有し、また、学年会に出席し課題の抱えている生徒の情報を担任、学年会と共有することで、部としての対応を行った。			
より良い教育環境づくり	校務支援ツールを活用し、省資源と業務の効率化、情報の共有化及び予算の効率的執行に努める。	○職員・PTAへの連絡に情報ツールを積極的に活用する。	○マチコミ等の情報ツールを活用し、校納金の未納者への督促を行い、長期滞納者が減少した。各種連絡には情報ツールを活用するなど状況に応じて対応した。	3	3	○限りある予算で設備管理されていると思うが、今後も安全に学べる環境づくりをお願いする。 ○学校にかかった電話をとる最初の方は、ご自身の名前を言われた方がビジネス上は良いと考える。
	施設・設備等の管理に努める。	○校内運営に支障のない、安全、安心に学べる環境を整える。	●多数の漏水箇所が発生し、断水など迷惑をおかけした。第4四半期及び来年度も、複数の工事を予定しており、引き続き、必要な修繕については、できる限り早急に対応し、生徒、職員が安全、安心な学校生活を送れるよう配慮していく。			
	開かれた学校として、人に優しい行政サービスに努める。		○学校行事等の開催時も各部と連携し情報共有を行った結果、大きな混乱もなく、苦情も少なかった。			
	校納金の100%納入。	○校納金の100%納入を目指す。	○マチコミを活用し引落前に連絡するなどの対策を講じ、納入促進に努めている。年度内には滞納者はゼロになる見込み。			